

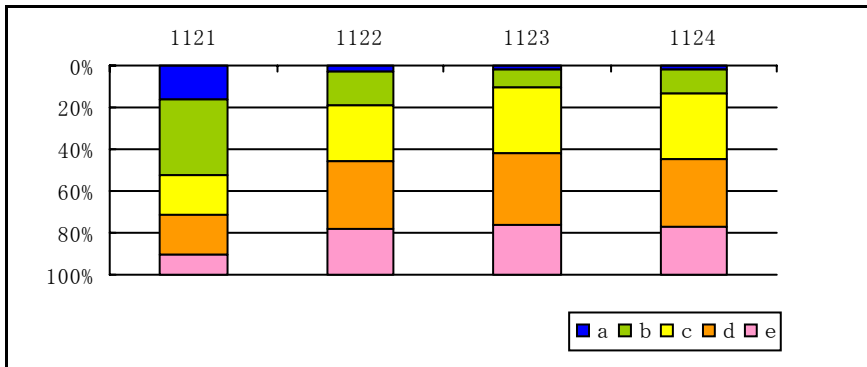
方向 子どもから高齢者まですべての市民がいきいきとくらせるまち、とくに高齢者や障害のあるひとが、住み慣れた地域社会のなかで、積極的に社会参加ができる場所や機会に恵まれ、多くのひとたちとふれあいながら社会の一員としての生きがいをもって活躍できるまちの実現をめざす。

評価
C (c) 客観指標については、全8項目のうち老人福祉施設の利用者数などの2項目でa評価であるが、障害者の社会参加に関する項目でe評価であるなど、全体として昨年度を下回り、どちらとも言えない状況である。
 市民生活実感については、全4項目のうち住環境に関しc評価であるが、就労の場の確保に関する3項目ではd評価であり、全体としては悪い状況である。
 客観指標評価及び市民生活実感評価を総合的に勘案し、この政策の目的は、そこそこ達成されていると評価する。

○政策の評価に用いる客観指標の最新値と評価 C (b)

1121	実体違反建築物件数(件)	176	d (b)
1121	完了検査済証の交付率(%)	57	c (c)
1122	老人福祉センターの利用者数(人)	510952	a (a)
1122	障害者社会参加促進事業参加者数(人)	11247	e (c)
1123	シルバー人材センターにおける就業延べ人員(人)	348006	b (a)
1123	障害のあるひとの通所授産施設等の施設数(人分)	1290	a (d)
1124	(準)勤労者情報システムアクセス件数(件)	16203	b (c)
1124	(準)京都労働学校入学者数(人)	1386	c (c)

○市民生活実感評価 d (d)



※ 市民生活実感調査
 答a: そう思う
 答b: どちらかというと思
 答c: どちらとも言えない
 答d: どちらかというと思
 答e: そう思わない

1121	今住んでいる住宅や周りの環境には満足している。	c (b)
1122	高齢者や障害のあるひとが社会参加できる機会が十分ある。	d (d)
1123	高齢者や障害のあるひとの働く場が確保されている。	d (d)
1124	だれもがいきいきと働ける場を得る機会がある。	d (e)

＜参考＞この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	だれもがずっとくらし続けたいすまい・まちづくり	評価:
1121 概要	まちや住宅の安全性・地域性・歴史性等に配慮しながら、市民、事業者等との協働により、良質な住宅、住環境を整備し、多様な世代が共生するまちを実現する。	C (B)
施策名	高齢者や障害のあるひとが積極的に社会参加できる機会の提供	評価:
1122 概要	福祉施設やスポーツ施設を整備し、ボランティア活動を支援するとともに、スポーツ活動の普及・ITなどの活用により、高齢者や障害のあるひとが積極的に社会参加できる社会を実現する。	B (B)
施策名	高齢者や障害のあるひとの能力向上や働く場の確保	評価:
1123 概要	高齢者や障害のあるひとの能力向上を図り、就業の場の確保に努める。	C (C)
施策名	だれもがいきいきと働けるまちづくり	評価:
1124 概要	勤労者のニーズに合わせた労働に関する情報の提供や学習機会の提供などを通じ、勤労者の福祉の向上を図り、誰もがいきいきと働けるよう支援を行う。	C (C)